

平成 30 年度第 1 回日進市食育推進委員会議事録

日時：平成 30 年 8 月 6 日（月）午後 2 時から

場所：日進市役所本庁 4 階第 1 会議室

出席者：委員 9 名 事務局 5 名

〔委員〕安達内美子、竹下穰（欠席、代理出席：大脇課長補佐）、小野田笑子、橘由貴子、
武田保、岡本光帆（欠席）、福岡光枝、小塚久美、鏡味美智代、下野房子

〔事務局〕鈴木敦詞課長補佐、岩城佳寿係長（産業振興課）、木村文香管理栄養専門員（健康課）、榊原裕美課長補佐（こども課）（欠席）、山本重樹主任（学校給食センター）、山田ゆかり主事（学校教育課）

傍聴者：無し

1 開会

事務局：（挨拶）

（代理出席委員の紹介）

ただいまより、平成 30 年度第 1 回日進市食育推進委員会を開催いたします。（会議の定足数について報告）

委員長：皆さん、こんにちは。暑い中、お集まりいただきありがとうございます。

本日の議題 3 にもありますように、第 3 次日進市食育推進計画の策定があるのですが、国や愛知県では、すでに第 3 次食育推進計画ができています。その中で、重点課題がいくつか挙げられています。2 番目に「多様な暮らしに対応した食育の推進」というものが挙げられています。ひとり親世帯や高齢者のひとり暮らし世帯がある中で「食育の推進をしていきましょう」ということなのですが、3 月に農林水産省が「こども食堂と地域が連携して進める食育活動事例集」というものを出しています。愛知県の中では、子ども食堂の発祥は長久手市なのですが、特に日進市は中心的な存在で、こども食堂を進めております。

愛知県では福祉施設等 10 か所でモデル事業を展開して、子ども食堂を増やしているようにしていますが、そのような人たちが第 3 次食育推進基本計画をご存知なのかといえば、必ずしもそうでもなく、「そのような計画があるなら、私たちも食育をこども食堂で進めていきたい」というような話を聞くこともあります。そのような意味で、住民に方たちの自主的な活動を推進していくためには、どのようにしたらよいのかと思います。食育計画をご存知ないのに、とてもがんばって活動していただいている方もありますし、逆に私どもが食育の推進を進めようとするうと引かれてしまい、実施していただけない場合もあります。私どもが主体になるのではなく、住民の方が食育をやりたくなる、食育に興味をもって取り組み

たくなるような支援というものができたらよいと思っています。この場では、皆さまといろいろなヒント等を出し合えるとよいと思います。本日はよろしく願いいたします。

事務局：ありがとうございます。

以降の進行は、委員長の安達委員にお願いいたします。

2 平成 29 年度実施事業報告について

委員長：それでは、次第に従って進めます。次第 2 「平成 29 年度実施事業報告について」事務局から説明をお願いします。

事務局：平成 29 年度の実施事業について、各課の担当者からご説明させていただきます。ご参考に、事前に送付させていただいた資料「平成 29 年度実施事業」をご覧ください。それでは、順にご説明させていただきます。

産業振興課：(産業振興課の報告)
(子ども課の報告)

健康課：(健康課の報告)

学校教育課：(学校教育課の報告)

学校給食センター：(学校給食センターの報告)

事務局：各課からの説明は以上です。

委員長：ありがとうございます。今の説明について、ご意見やご質問はありませんか。赤字の部分は変更箇所だということですが、少し詳しく教えていただけますか。

事務局：例えば、市民講座等については、以前お配りした資料では 28 年度の実施内容が書いてありましたので、29 年度の内容に変更しています。

健康課：健康課の部分に関しては、平成 29 年度には、対象者の部分は予定としていましたが、きちんと対象者を定めています。大きな流れは変わっておりません。

委員長：①から⑧まで、割とまんべんなく取り上げられていると思います。

また、重なっている部分あり、これ以上にやっているのだと思います。

下野委員：実際に課でつくられているリーフレットやパンフレットは、どのように手に入れることができますか。例えば、子ども課で朝食摂取啓発のリーフレットをつくり、保育園保護者に配布していますが、どのようなものを配布しているのか見たいと思ったときには、どこかで手に入れることができますか。

委員長：健康課のものはホームページからダウンロードできるようになっています。

健康課：今は保育園の給食カレンダー等もホームページで公開していますので、確認ができると思います。

すべての資料が設置しているということはないと思いますが、担当課に聞いていただければよいと思います。

委員長：最近、国でもリーフレットをつくっても冊子にはせず、印刷物として用意せずに、自分でダウンロードする形になっていることが多いようです。これも何十ページもある冊子ですが、冊子としては手元にはなく、自分でダウンロードする形です。リーフレットであれば印刷したものがあるとは思いますが。

下野委員：子ども課、保健センター等、他の課のものは、実際には出ていないということですか。

事務局：子ども課が出しているのかは、今すぐには分かりません。

下野委員：あまりホームページを細かく見たことがないですが、そこには個別の場所があるのですか。そこにアクセスすると、少しは情報が得られるということですか。

事務局：調べたいキーワードを検索していただくと、その言葉を含むページがでてくるという形です。

下野委員：分かりました。一度やってみます。

武田委員：食育について、市のホームページには載っていますか。

事務局：はい。食育というところがあります。

武田委員：内容は、あまり入ってなかったように思いますが。

委員長：関連のページに飛べるようになっていれば便利だと思います。

事務局：ホームページの不十分な点については、改善させていただきたいと思います。

武田委員：目標値と書いてあるのですが、どれでしょうか。

また、例えば、この事業をやることについて、目標値として、何度実施するかというようなものがあったらよいと思います。

事務局：こちらの指標の番号は、第2次食育推進計画の目標値についてのもので、例えば、1番だと「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の人の割合の増加」の目標値が70%以上と書いてあります。この目標に対応した事業ということです。

武田委員：事業項目に対する目標はないのですか。要するに、それをやることによって、その目標を達成するということになっているのだと思いますが、この具体例で、どれだけ実施し、どれだけ達成できたかということです。目標を達成するために事業計画をたて、その結果がどのようになったかが書かれていると分かりやすいと思います。せっかく計画をたてているので、推進できたのか、8割くらいしかできなかったのかということを示すということです。

委員長：前回、前々回の計画、30年度の計画、29年度の計画というものをこらで示して、その結果、29年度はこれだけやりましたということです。

武田委員：ですから、その結果が目標値に対してどうだったかということが示されていれば、私どもも分かりやすいと思います。

委員長：大体、目標通りに実施されているのではないですか。

武田委員：赤字で書いたものは、目標をたてたけれども、達成するためには新たにやったことではないですか。2つやるつもりが、1つ増やして3つということです。

事務局：赤字部分については、基本的には大きく変わったというよりも、28年度の情報を、最新の29年度の情報に更新したという形ですので、新たに追加したということではありません。

武田委員：見直した部分もあると思います。実際にやってみたら、思ったように進まなかったこともあると思いますので、そのあたりをはっきりさせる必要もあると思います。すべてを達成するという事は難しいと思います。目標値のどれくらいまで達成できたかを示すと分かりやすいと思います。

委員長：次年度以降、参考にさせていただきたいと思います。

副委員長：かなり多くの事業をいろいろやっていて、特に一般市民が参加する事業に対して、反響、感想、要望等があると、次年度、そこから発展させることができますし、検討課題にもなると思いますので、盛り込んでいただけるとよかったですと思います。その反響等を、分かる範囲でお聞かせいただきたいと思います。

事務局：産業振興課については個別のアンケートを取っておりませんので、お示しできるものはありません。今後は、講習があったときには、感想やアンケートを1枚用意して、お声をうかがうように改善させていただきたいと思います。

健康課：健康課でも、アンケートをすべて取っているというわけではありません。食生活改善推進委員会に委託している講座に関しては、直接、アンケートを拝見する機会がなく、反省しています。ただ、参加者にお会いしてお話をお聞きすると、満足度は高いと感じています。参加者には高評価をいただいているということです。また、「野菜を摂ろうキャンペーン」でリーフレットを配布するとありますが、乳幼児健診のときに、愛知県の野菜摂取のレベルが低いと書かれたリーフレットを保護者に配布しています。まったく見ないで、その日に会場に捨てられているというものはありませんので、すぐに捨てられる状況ではないということだと思っています。今後の課題としていきたいと思っています。

委員長：他にご意見等はございませんか。
それでは、次に進みます。

3 第3次日進市食育推進計画策定に係るアンケート調査結果報告について

委員長：次第3「第3次日進市食育推進計画策定に係るアンケート調査結果報告について」について、事務局から説明をお願いします。

事務局：事前に送付させていただいた資料のうち、次の4点の資料をご覧ください。①「日進市食育推進計画アンケート調査 調査結果 報告書」、②「関連計画等を踏まえた地域特性分析（SWOT分析）」、③「地域特性分析からの現状・問題と重点課

題の整理」、④「計画の数値目標」の4点です。

第3次日進市食育推進計画策定作業に先立ち、昨年度、委員の皆さまにご協力いただき、アンケート調査を実施いたしました。本日は、アンケート調査及び計画策定業務を委託させていただいております、株式会社名豊にもご出席いただいております。アンケート調査結果及び分析について、名豊からご説明をいただいた後、「計画の数値目標」について、産業振興課からご説明させていただきます。

名豊：(資料に基づき、アンケート調査結果及び課題について説明)

事務局：ありがとうございました。

引き続き、「計画の数値目標」について、産業振興課からご説明させていただきます。

事務局：(資料に基づき、計画の数値目標について説明)

委員長：ありがとうございました。ご意見やご質問はありませんか。実際に日進市内で生活をしていて思うことがあれば、次の計画につながると思いますので、ご意見をお願いします。

下野委員：(2)「食を通じて豊かな「心」を育みます」で、「毎日1食でも一緒に食事をする家族や友人がいる割合」は、学校給食を食べていると、当然当てはまります。その数値も入れて回答するというのでしょうか。質問項目に但し書きのようなものは不要ですか。

事務局：調査票をつくるときに、そのような話がでていて検討したと思います。

下野委員：当然、学校給食を入れると値は高くなりますね。

委員長：中学生の間8ですか。

事務局：はい。中学2年生調査票の間8です。注意書きは入っていないので、学校給食についても解答された方もおられると思います。

委員長：策定時の問いと合わせているということですか。

事務局：そうです。

下野委員：報告では、全体を把握する数値にはなっているのですが、目標として、少し具体的なことを入れるとよいと思います。例えば、バランスガイドが利用されていないのは見にくいからだと思います。自分の適正体重が分からないとき、どこでどのように知る方法があるのか、バランスガイドが見にくいのであれば、見やすい形で、一般の方にも分かるような形につくり直していくというような具体的なものが、次の計画では必要だと思います。ただ単に数知ばかりを追いかけても、あまり変わらないと思います。実際に、適正体重が知ることができたという教育をして、次のアンケートには「知っている」と回答してもらえようということ。「バランスガイドを少しは利用している」「食品表示を少しは見る」というような、現実的な働きかけを具体化していかないと進歩がないと思います。実際に、前回の調査とあまり変わっていないと思います。ですから、このような全体的な目標もある上で、現場ごとで具体的な事業を取り入れるということです。例えば、小中学校の保健か栄養の授業で、自分の適正体重を自分自身で把握できるようにするというようなことです。対象に合わせたものを与えていくということです。そのような具体的なものが1、2個でも入るとよいと思います。

委員長：具体的にどういう取り組みをしていけばよいか、計画の中に入ってくるとよいというご意見です。

武田委員：1つの大きなテーマに対して、いくつかの科目を実践しないと達成できません。そのようなところが具体化されるとよいと思います。

下野委員：今回の調査では、成人の中でも高齢者の割合が多いので、例えば高齢者が集まるようなところで、このような達成目標にするために、何かアクションを起こすとよいと思います。

武田委員：学校の関係などもありますので、お互いに割り振りをしていくとよいのではないのでしょうか。役所だけでやろうとするには無理があります。

委員長：気になったことは、報告の6ページ問4-1の理由ですが、この間に答えるのは、「誰かが一緒の時と、ひとりで食べる時がある」「いつもひとりで食べる」と答えた人ですが、この3年生は16人で、数としては非常に少ないのですが、「ひとりで食べたいから」と解答した割合が、6年生、中学生、高校生と比べて一番高くなっています。小学3年生が、「ひとりで食べたいから」という選択肢を選ぶということ自体、違和感を覚えます。「家族の帰りが遅いから」は0ですので、たぶん

「家族はいるのだけど、ひとりで食べたいからひとりで食べている」ということだと思います。思春期になれば、そのようなこともあるかと思いますが、小学3年生は、一緒に食べて楽しさを体験する年齢だと思います。

下野委員：過去の調査データで見た事例ですが、自分の食事風景を描かせると、部屋の中で、一人で好きなテレビを見ながら食べている絵を描くということでした。そのような傾向があるのかもしれませんが。

委員長：それは、私の先生の研究だと思います。親は、子どもが望んでいるからそういてあげていると思っていますが、実際は少し違うと思います。

また、気になった部分は、51ページの年齢別の問題点を挙げたものですが、70歳以上では「高カロリー食が多い」というのは一番少ないのですが、「食べすぎてしまう」という割合が比較的高くなっており、高齢者方の低栄養が気になります。知らず知らずに食べ控えていて、低栄養になる可能性があるという心配があります。

また、第3次食育推進基本計画の重点課題の最初に「若い世代を中心とした食育の推進」が挙げられていますが、結果をみても、やはり若い20代、30代に問題があり、こちらについても進めていかなければいけないと思います。高校生や中学生のアンケート結果から思ったことは、「食育とは子どものころから」というふうに思っているということです。高校生は、「もう自分は子どもではないので、子どもにとっては大事でも、自分には関係ない、関心ない」と思うのではないかということです。多くの方に、「食育というと子ども」というイメージがあるかと思います。

第2次の重点課題は、「間断ない食育の推進」だったのですが、すべての世代を通じて、サイクルを意識した食育の推進というものを国も進めてきましたが、「食育といえば子どものもの」という印象が、まだあると思います。

小塚委員：私は、生活介護の講習をしています。お年寄りの方が多いのですが、「料理の作り方がわからない」という人がいます。お話をうかがうと、仕事をしていたということで、家庭のことを顧みる時間がなかったという方がおられます。退職して時間ができても、難しいようです。そういうことを考えると、若いころからしっかり学べるように支援しないといけないと思います。

以前は、女性が食事をつくることは当たり前のことでしたが、私の娘婿は、娘ができないときには家事をしています。家族みんなが顧みるようになればよいと思います。家族の在り方というものが大切だと思います。働いていても、イベント等で、「みんなで作らしましょう」というような機会があれば、子どもとともに

つくる楽しみを覚えることができ、自然につくるようになるのではないでしょう
か。そこで、食育の話をしていければよいと思います。

昨日、テレビでみたのですが、月に1回か2回、お寺や神社で縁日があり、いろ
いろな屋台ができれば、みんなが集まります。日進市でもそのような日を設けると、
大人も子どもも集まるので、ここで食育に関して話をするとよいと思います。

委員長：強制ではないですが、自然に魅かれるものがあるって定例化していけるものがある
とよいと思います。

武田委員：この結果において、次年度はこのようなことをやると示していかなければいけ
ないと思います。

委員長：今後、10月以降進めていくのだと思います。

武田委員：すると、30年度は終わってしまいます。やはり、年度が始まる前の3月の末に
は始めていかなければ、人事異動もあります。

委員長：30年度の予定の話は前回にしたと思います。

武田委員：これは29年度のものですが、もう、31年度のものをつくっていかなければいけ
ません。

委員長：事業計画は何月くらいにたてられるのですか。

武田委員：これほどきれいにまとめていただいているので、この4つの中できちんとでき
ていると思います。

委員長：それで、第3次食育推進計画をこれからたてるのです。それは31年度から使う計
画になります。今年是最終年度になりますので、そのまとめをしているところ
です。今、いろいろな課題を出していただき、次の計画に結びつけたいということ
です。

名豊：委員長のお話の通りで、今の第2次計画をもって、今年度までは推進していきます。
昨年度、アンケート調査をして、今年度が計画を作成するジョイントの年度とな
ります。先ほどからご意見をいただいている通り、今後、課題に対してどのよう
な事業を、具体的にどれくらいやっていくのかということ、いわゆる推進する体

制づくりをしていくということです。アンケート調査では、3年に1回とか、そのときの結果しかわかりません。アンケートをとってみて、よかったとか、よくなかったという形ではなく、計画の推進においては、行政計画として、こういった事業をどのくらいの期間行うのかということも、しっかりと位置付けていく必要があります。

皆さまからのご審議の結果や重点課題等を生かし、国が出した第3次計画との整合もとりながら、新たな計画をつくるのか今年度ということです。

その中に、重点で取り組む項目もすえ置き、今後、その計画に添って、行政が実際に食育に関する取り組みを進めていくという形になります。

武田委員：予算との絡みもありますね。

名豊：はい。ですから、重点的に何をやるかということも重要になります。

事務局：実際に、第3次計画づくりを今後進めていきますが、それができれば担当課で目標に向っての事業に取り組んでいくことになります。ただ、新たな事業として、大きく予算が絡むものについては、平成31年度に取り入れるのは難しいということがあります。早い段階から、翌年の予算が決まります。お金をかけずにできることに関しては、今後、各担当課で考え、取り組みとして捉えていくつもりです。

委員長：他にご意見等はございませんか。では、次に進みます。

4 その他

委員長：その他として、事務局から何かございますか。

事務局：(今後のスケジュールについて説明)

委員長：ありがとうございました。他にご意見等はございませんか。

(こども食堂の勉強会についてPR)

では、すべての議題が終わりましたので、進行を事務局にお返しします。

5 閉会

事務局：長時間にわたり、ありがとうございました。皆さまのご協力により、全ての議題をつつがなく終えることができました。これで平成30年度第1回日進市食育推進委員会を終了させていただきます。本日は暑い中、誠にありがとうございました。